

はじめに

三重県立稲葉特別支援学校

校長 浅生 篤

～ 記憶と記録 ～

春うらら。

学校は新しい季節を迎えます。一年の締めくくりの3月。はじまりの4月。

さまざまな思いが交差する月替わりです。

学校の日課が規則的であるだけに、たまさか今日の出来事を思い出そうとして、輪郭が曖昧になることがあります。年齢による衰えもありましょう。元来、私たちの記憶には限りがあり、時間の波に洗われれば洗われるほど純化される傾向もあります。

私たちの毎日は、企画されたはたらきかけと子どもたちの反応と相互作用の積み重ねで成り立っています。何気ない日常の営みの中に、子どもの成長の連続があります。いくつかの気づきがあり、よろこびもあり、悲しみも混じっています。日常のひとこまを切りとったり、特別な意味を見出そうとすれば、記憶はあまりにも断片的でおぼつかない。このため、記録のもつ補完性と継続性を軸にして、まとまりや評価を導き出しています。

私たちは、子どもたちの成長の確かな証を得ようとするとき、記憶に頼るのではなく、記録に残す努力をはらってきました。その意味で、日々の記録は最も重要なものです。今日では、さまざまな情報技術の進化により、映像や数値化されたものに置き換えて記録できるようになってきました。電子機器などの便利な道具の出現によって、記録に残すことは容易になってきましたが、同時に膨大な量の記録の中から、意図的に抽出したり、読み解くことの難しさも抱え込むことになりました。

さて、稲葉特別支援学校では、「教育の今」をお伝えするために、さまざまな通信を発行してまいりました。これもまた、子どもたちと共有したよろこびや悲しみやときめきを、大切に記録として残しておきたいと願っているからに他なりません。

特に、学校内外への積極的な情報発信は、今日の情報化社会においては、大変重要な役割となっています。本校における「イナバタイムズ」も、時宜を得て発刊を重ねてまいりましたが、再発行の要請もあることから、あらためて既刊分を一本に編んで上梓するのはこびとなりました。

本校の教育が、子どもたちの自立と命の輝きを大切にして、人にやさしい共生社会を指呼できるように、さらなる研鑽に励んでまいりたいと考えております。この冊子の発行により、一人でも多くの方が本校の教育に関心を抱いて下さることを、そして忌憚のないご意見や厳しいご叱正をお寄せ下さることを、切にお願い申し上げます。

この通信の発刊に際し、これまでたくさんの先生方や関係者の皆様方から、懇切丁寧なご指導やご助言を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。